

令和 6 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	11	学 校 名	静岡県立藤枝特別支援学校	記 載 者	岩附 祥子
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア 安全・ 安心	命を守る危機管理体制の整備と共有	・緊急時での自身の役割が分かり、具体的な行動を考えた教職員 100% ・担当する医ケア児の緊急時・災害時の用具の保管場所や扱い方についての研修を 3 回以上実施し、理解した担当者 100% ・ヒヤリハットの報告を自分が担当する活動場面に置き換えて対応を考えた教員 100%	A	A	・管理やチェック体制を明確にすることか危険やミスをなくす第一の方策。 ・良好な状況と感じた。さらに向上を目指す意欲が感じられた。
	教職員一人一人の人権意識の向上と学校風土の醸成	・児童生徒への呼び方（さん付け）や口調、対応が常に人権を尊重したものになっていると答える教職員 100%	A	A	・学校の「安全・秩序・快適さ」を追求し、誰にとっても気持ちの良い場所にすることを大切にしている ・いつも礼儀正しく挨拶してくれ、一人一人を大切にしていることが日ごろの様子から強く感じる
	自己肯定感や人権意識の高い児童生徒の育成	・人権教育全体計画や実態に応じた年間指導計画の作成 ・自分や友達が互いに大切な存在であることを学ぶ機会を設定した教員 100%	A	A	・人権への意識向上に向けた取組が、精神面の安全を獲得している
	学習環境の整備と安全点検	・安全点検、スクールクリーンを効果的に実施し、整理整頓や環境整備のために行動を起こした教職員 100%	A	A	・取組をマンネリ化させずに継続していることがよい。
イ 授業	個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づいた授業実践	・児童生徒の根拠のある実態把握、目標設定、達成するための具体的な場面を共通理解して、その目標達成に向けて取り組んだ教員 100% ・各教科等を合わせた指導の学習評価を実施できた教員 100% ・各教科等を合わせた指導の授業実践のために、教材研究等の授業準備の時間を前年度より確保した教員 100%	A	A	・「短縮週間」の有効性や実効性の確認が必要。その上で、「短縮週間」の取組は継続実施が望ましいと感じた。

様式第5号

	教職員の専門性の向上	- 教材教具や ICT 機器を大切に扱い、貸出や使用方法のルールを守って活用した教員 100% - 各種研修や自分からの学びを積極的に活用し、自身の指導力向上につなげた教員 100%	A	A	「藤特版キャリアステージ研修」の意図や効果がさらに浸透していくような方策があるとよい。
ウ 連 携	学習と経験のつながりを意識したキャリア教育の実施	「キャリア教育の手引き」を活用して生活年齢に応じた授業（日生、特活、道徳等）を行った教員 80%以上 - 懇談会や支援会議等の資料に活用した学年主任 100%	A	A	次年度は「キャリア教育の手引き」の内容に関する勉強会や説明会の実施を考えていることに賛成。
	地域資源を活用した共生社会の実現を目指し、保護者、関係機関、地域との連携・協同体制の充実	- 交流関係者（相手校・保護者・担当者）が目的を理解して実施、参加し、その後保護者に対して地域での活動の紹介をした教員 70%以上 - 本校の良さを理解してもらうための工夫をして、効果的に情報発信をした教職員 90%以上 - 学校運営協議会制度への理解が進んだ教職員 100% - 地域とつながる授業を計画した学年主任等 90%以上	A	A	地域とのつながりはかなり充実してやれている。今後も協力したい。